



令和5年度 第1回地域協議会が開催されました【令和5年4月18日(火)19:00~】

■令和4年度地域コミュニティ活動交付金事業実施報告・収支決算について

まちづくり推進委員会が令和4年度に実施した地域コミュニティ活動交付金事業、20事業、決算額5,395,716円について、どの事業も適正に執行されていましたので、実施報告及び決算が承認されました。



事業名	実施年数	決算額	事業名	実施年数	決算額
1 見守り活動事業	14年目	81,347	12 ダンボールコンポスト事業	11年目	83,192
2 防災訓練事業	14年目	254,826	13 ペットマナー向上事業	8年目	54,628
3 防災力の向上事業	11年目	32,519	14 大塚音頭普及促進事業	10年目	2,329
4 災害対応積立基金備蓄品購入事業	2年目	1,094,734	15 健康増進事業	5年目	37,716
5 防災充実事業	11年目	504,400	16 江南小学校地区体育祭共催事業	12年目	0
6 生活支援事業	6年目	3,720	17 大塚町体育祭共催事業	12年目	55,792
7 「やさしいまち大塚」プロジェクト事業	2年目	65,749	18 昔の遊びとニュースポーツに挑戦事業	12年目	4,926
8 男女共同参画社会づくり事業	14年目	13,622	19 祭り大塚共催事業	2年目	675,761
9 ふれあいサロン事業	13年目	29,612	20 まちづくり充実事業	9年目	1,856,158
10 健康づくり事業	6年目	23,407	合計		5,395,716
11 水流川クリーンアップ事業	12年目	521,278	令和5年度への繰越金		1,425,043

■「大塚地域まちづくりビジョン」の検証作業について

2025年問題を見据えて、第2層協議体であるチーム大塚が、大塚地域の「介護予防」と「生活支援」の分野において、地域包括ケアシステム（地域ぐるみの支え合いの仕組み）づくりに取り組んでいます。地域包括ケアシステムでいう「介護予防」とは、「交流できる通いの場を作りましょう」を、「生活支援」は「ちょっとした困りごとのお手伝い」をイメージしています。今のまち推の「生活支援事業」は、居場所づくりを目的としていますので、地域包括ケアシステムでいえば「生活支援」ではなく、「介護予防」分野の事業と思われる。

従いまして、今回は、「生活支援事業」の居場所づくりを、同じ【介護予防】分野の事業であるサロン関連事業と統合または共催化、もしくは「生活支援事業」の事業名を変更したらどうか。そして、「生活支援事業」は地域包括ケアシステムと同じイメージの新たな取組を検討した方が良いのではないかについて、フリートークしました。



フリートークで出された意見の一部

- ◆ 先日、チーム大塚の会議に出席した時に、「ちょいボラ、ちょっとボランティア」の話が出た。コロナ禍で、中々顔合わせや人のつながりが無くなっている今、近所同士の付き合いというところで、隣に高齢の方が住んでおられれば、例えば、ごみの日にゴミ出しのお手伝い、ちょっとしたボランティアをすとか。今、学校もボランティアはあまりやっていないが、以前は夏休みに中学生が高齢者の家に行って、草むしりを手伝ったりとかしていた。出来る範囲のボランティアを「ちょいボラ」という形にして、地域に広めていったら、住みやすい街にならないかなという話があった。
- ◆ 地区社協にもふれあいサロンがあるが、三世代交流とは違うので、そのあたりも整理した方が良く思う。
- ◆ 大塚は公民館でしかサロンはできないのかもしれないが、もし可能なら、どこかの空き店舗とかで、高齢者の方が買い物ついでにちょっと寄って、何曜日と何曜日はそこに行くともみんながいてみたい。三世代交流もそこに行ったら、例えば何月何日は地区を限定せずに、大塚地区のサロンとして、大塚地区に住んでいる子ども達から高齢者まで自由に来れるみたいな感じにしていったら、今コロナで横のつながりが無くなっているの、いいなと思った。

【裏面に続く】

◆ 生活支援ということ言えば、住民の方に何ができますよというよりも、むしろどういうニーズがあるのかを、自治会の役員さんが、地域のことをよく知っているの、ちょこちょこ声をかけながら、困りごとのニーズを抽出すれば、何が応援できるかとか、業者さんにつなぐとか、自治体に案内して、自治体の支援を受けるとか、いろんなことができるので、まず、ニーズを先に把握したうえで、生活支援を考えていった方が良くと思う。

◆ 生活支援事業が、ストレッチ、軽体操、おしゃべり、大塚音頭とかを行う居場所作りに変わってきて、それはそれでいいと思うが、では生活支援はどこ行ったって話で、結局こっちはやってないと思う。生活支援をどこまでやるかという話になると思うが、身の回りのことをちょっと助けてあげるボランティアみたいな話であれば、例えば、雑草を抜いてあげるとか、瓦が落ちかけてたら直してあげるとか、網戸が破れていたら修理してあげるとか、そんなことをやれる人たちをもう一度募集するなり、声かけするなりして集めて、生活支援をしていけばいいかなと思う。

令和5年度 第2回地域協議会が開催されました【令和5年6月20日(火)19:00~】

委員の交代

地域協議会委員が1名交代しましたので、お知らせします。

(旧)協議会委員	推薦団体	(新)協議会委員
谷口 義幸	消防団大淀分団第3部	飯塚 真一



令和5年度地域コミュニティ活動交付金事業申請及び意見書について

まちづくり推進委員会から、以下の8事業が提案され、事業実施に際しての意見を付して、全事業承認されました。

事業名	事業への意見
1 防災訓練事業 (15年目) 事業費 500,000円	防災部会と自治会が密に連携して取り組んでいただきたい。また、学校との連携も図り、子ども達の参加を増やしていただきたい。
2 防災力の向上事業 (12年目) 事業費 80,000円	地域防災の向上には、リーダーの存在が重要であり、専門知識を有し、やる気のある防災リーダーの育成は、早急に取り組むべき課題である。今後とも、自主防災隊と連携を密にし、リーダーの育成に取り組んでもらいたい。
3 防災充実事業 (12年目) 事業費 600,000円	災害時の避難所生活を円滑に送るためには、防災機器・用品の整備は非常に重要であるので、地域のニーズや避難者の声を十分把握し、計画的な整備を図っていただきたい。
4 生活支援事業 (7年目) 事業費 20,000円	大塚地域は、生活支援分野の取組が十分ではないので、まちづくり推進委員会も一員である「チーム大塚」で協議を重ね、是非、地域ぐるみで支え合う事業を展開してほしい。
5 スマイル大塚事業 (旧ふれあいサロン事業) (14年目) 事業費 60,000円	生活支援事業の居場所づくりをふれあいサロン事業に加える形で一本化したことは、まちづくり会員の負担軽減にも繋がり、これからの持続可能なまちづくりを考えるの大いに評価できる。引き続き、子どもから高齢者まで誰でも立ち寄れる居場所を作り、3世代交流や地域住民同士の親睦を深めていただきたい。
6 健康づくり事業 (7年目) 事業費 25,000円	今年度は、生活習慣病予防についての講座が計画されている。普段の生活や食生活を見直すきっかけとしていただきたいので、参加予定人数が確保できるように、事業の周知を徹底していただきたい。
7 男女共同参画社会づくり事業 (15年目) 事業費 50,000円	本年度は、若い親御さん向けに「我が子に、性について話ができる機会を作ろう」と呼びかけるための講座開催を計画している。参加者は子連れ可とし、親御さんがゆっくり聞けるように、子どもは別に預かる計画なので、くれぐれも事故等のないように、余裕を持って子どもを見れる万全の体制で臨んでいただきたい。
8 祭り大塚共催事業 (3年目) 事業費 1,546,000円	多世代が参加する、地域一体となった祭りとなるよう、自治会連合会を始めとする大塚地域の各種団体と一層の連携を深めていただきたい。また、まちづくり推進委員会との共催事業として、活動交付金を活用するが、将来的には、活動交付金には依存しない自走事業となるよう、更なる自主財源の確保を図っていただきたい。

「大塚地域まちづくりビジョン」の検証作業について

今回は、「大塚地域で行われている事業・取組を組み合わせ、生活支援分野の支え合いの仕組みづくりはできないか」についてフリートークを行いました。出された意見は、次回紹介します。

発行:宮崎市地域振興部 地域コミュニティ課 大塚地域事務所
TEL:54-2222 住所:宮崎市大塚町鎌ヶ迫2296-3(大塚中学校となり)
FAX:64-0270 メールアドレス:07otuka-c@city.miyazaki.miyazaki.jp

